

社会科学・制度分野 WG

1 目的

- リファレンスモデルの作成
- 具体的には、「月面社会におけるルールはどのようなものとなるか」、「月面社会と地球との関係・ルールはどのようなものとなるか」など。

2 検討を行うに当たっての仮定・前提

- 1,000人規模で、地球から（一定程度）自立して存在している社会を想定。【「一定程度」について要検討】
- 滞在している人の比率について、各WGにて検討。【WGにて要検討】
 - A：ワーカー
 - 30代～50代
 - 滞在1年？
 - B：ワーカーとその家族
 - 配偶者、子ども、親？
 - 数年の赴任？
 - C：移民＋観光客？
 - 0～100歳が各10人
- 地球からの観光客が、毎日30人来て、10日間滞在。
- 【その他】

※以上について、1000人規模の社会を運営するとき、ルール作りの面から、重要な制約を識別した場合、この前提にフィードバックする。

3 検討事項

(1) 参加主体

- 月面で実際に運営するのは、国家主体か、民間企業主体か。
- 地政学的な検討は行わず、余力があれば追加オプションとして。
⇒コミュニティは1つとして考える。
参加国は、友好国として考える。

(2) 地球との関係性・依存度

- 地球との関係性・依存度は、最初は高く、徐々に低くなると思われるが、そのような過程を考慮すべきか（1,000人規模のコミュニティの関係性・依存度はどの程度なのか）。
- 地球との行き来の頻度をどうするか。

- (3) ルール作成の方法・過程
- どのような事項をルールの対象とするか。
 - ルールの執行方法をどうするか。
 - ユートピア（理想論）か、ディストピア（現実論）か。
- (4) 紛争が起きた際の解決方法
- ①窃盗などの単純な犯罪の場合
 - ②参加者間の民事紛争の場合
 - ③リソースの配分などについて争いが生じた場合
 - 月面上で解決するのか、地球上で解決するのか。
 - 月面にどこまでの権限（統制権）を与えるのか。
- (5) 宇宙条約等、地球上のルールの履行確保をどうするか。
- (6) 【その他】